5 削減計画の策定 ～ヒト・モノ・カネの振り分け～

▶ 3 で設定した目標に合わせた細かいロードマップを作成

売上の将来予測

▶製品製造の稼働時間から自社の主力製品を把握するとともに、排出量との比較を行う。
例えば、エネルギー使用量が少ないが、売り上げに貢献しているような主力製品は増産を検討する。

▶製品を多く製造することで、1 点あたりの排出量を圧縮できる場合は、増産が可能かを検討する。

人員の適正配置

▶稼働時間を最適化することでエネルギー使用量が減少可能であれば、人員配置の見直しを検討する。

設備投資時期の適正化

▶能力が同等だがエネルギー使用量の多い設備について、省エネルギー型設備への更新時期を検討する。

▶原価管理からエネルギー自体の価格に課題がある場合は、エネルギー価格を固定化・低減化するために自家消費型の再エネ設備の導入時期を検討する。

取引先との連携

▶工程削減によりエネルギー使用量が削減できる場合
→品質管理の観点で取引先との交渉・合意を検討する。

▶工程端材の削減により、原材料由来の排出量 ↓ ＝ 原材料費 ↓ の場合
→自社の排出量削減努力が価格に反映できるように交渉することも検討する。

▶大規模な燃料転換により、大幅な排出量削減が見込まれる場合
→交渉することも検討する。

ロードマップのイメージ 1

中期経営計画（ヒト・モノ・カネの振り分け）に、目標設定した年次の削減排出量を重ね合わせていく。

例　中期経営計画における CN 関連設備導入契約予定

対策	対策実施年	計画期間（年）										費用等
		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
コンプレッサの吐出圧低減	2022年		工事	実施								排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：なし 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
LED 照明	2023年			工事	実施							排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：なし 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
屋根の遮熱	2022年	工事	実施									排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：●●千円 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
自動車の台数削減、EV 導入	2024年				工事	実施						排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：●●千円 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
見える化	2023年								工事	実施		排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：●●千円 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
太陽光発電設備の導入	2023年		工事	実施								排出削減量：●●t-CO_2 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年
再エネ電力への切り替え	2030年									検討開始		排出削減量：●●t-CO_2 投資金額：なし 光熱費・燃料費増減額：●●千円／年（増加）

ロードマップのイメージ 2

例　中期経営計画におけるエネルギー転換導入予定

対策	計画期間（年）												技術開発難度	30年削減効果	コストBAU比	課題・導入条件
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030				
バイオマスボイラー導入	導入検討												中	150千 $t\text{-}CO_{2e}$	初期費用 運転費用	バイオマス燃料の安定調達
			導入													
再エネ電源（太陽光発電）	導入検討												低	40千 $t\text{-}CO_{2e}$	初期費用 運転費用	太陽光設置場所の確保
			導入													
再エネ電源（太陽光以外）	事業計画・調達規模の検討（導入条件の判断）												低	ー	初期費用 運転費用	安価かつ安定的な量の調達
			調達先、メニュー選定													
水素活用	技術動向確認												高	ー	初期費用 運転費用	調達安定性 エネルギー単価

環境省　SBT等の達成に向けたGHG排出削減計画策定ガイドブック